令和４年度　英語科　授業改善推進プラン

大田区立大森第四中学校

１　昨年度授業改善推進プランの検証

・授業の最初に各学年でやることを統一し、基本的な内容を継続的に繰り返し行った。それにより、基本的な事項の定着を図ることができた。 ・日々の授業の中で、リスニング、小テスト、パフォーマンステストを継続して行った結果、生徒の「聞くこと」「読むこと」「書くこと」の力を総合的に伸ばすことにつながった。 ・英作文指導では、授業内で「英作→添削→直し→発表」という一連の学習の中で、英文法の定着や自己表現力を付けることができた。

２　大田区学習効果測定の結果分析

内容結果の分析	（聞くこと）	対話文については、話し手の英語を聞きとり、適切に応答する問題の正答率が高かった。内容理解の問題については正答率が低いため、要点を聞きとり、メモを活用しながら内容を把握させるように努めたい。
	（読むこと）	語形・語法を理解し、適切な形を選ぶ問題が不十分であった。文法のルールが正しく理解できるよう、繰り返し演習を行っていく必要がある。資料や長文を読み取り、要点を把握する問題の正答率は高かった。
	（書くこと）	英作文の問題では目標値を上回って書くことができた。語彙の知識・理解がさらに深まるよう、英語を読んだり書いたりすることで多くの語彙を学習させていく。
	＜第１学年＞	ほぼ全ての内容で目標値を上回っている。なかでも「聞くこと」「読むこと」の正答率が高かった。「主体的に学習に取り組む態度」が目標値を下回った。
	＜第２学年＞	全ての内容で目標値、区、学年平均正答率を上回っており、特に「書くこと」「聞くこと」の順で正答率が高かった。これは、教員が授業を英語で取組やパフォーマンステストを「書くこと」から「話す活動」へつなげたことが結果として表れたと考える。
	＜第３学年＞	全ての内容・領域で目標値を上回っており、特に「書くこと」の領域では正答率が高かった。今後もバランスよく技能を伸長させるため、引き続き言語活動を充実させていく必要がある。
観点別結果の分析	（知識・技能）	語形・語法の理解や、単語を正しく書く問題の正答率が低かったため、英語を正しく書くことや、文の構造についての定着を図りたい。
	（思考・判断・表現）	場面に応じて書く英作文の正答率が目標値を上回った。記述式のリスニング問題も正答率が高かった。多読の成果が表れた。
	（主体的に学習に取り組む態度）	テーマに沿って３文以上で書く問題については、説明や理由を具体的に書くことができ、全国正答率を上回っていた。

３　調査結果に基づいた授業改善のポイント

（１）聞くこと	①授業の帯活動でリスニングやディクテーションを行い、メモをとりながら要点を正確に聞きとれるよう演習を行う。 ②疑問詞や数字など核となる情報が的確に聞きとれるよう、繰り返し練習させる。
（２）読むこと	①教科書の音読に力を入れ、英語の並びの順番を定着させる。 ②長文の読み取りでは、必要な情報・条件を正確に読み取れるよう、数字や動詞に着目して取り組ませる。
（３）書くこと	①教科書を読んで言えるようになった英語をノートに書くことで、英語を正確に書く力を高める。 ②テーマに沿った英作文練習を繰り返し行うことで、英語を使って表現する力を高めさせる。

４　英語科の授業改善策

＜第１学年＞	・小学校英語活動で育んできた聞く力を向上させるために、クラスルームイングリッシュを積極的に取り入れていく。４技能を活用して言語活動を一層重視する。 ・実際のコミュニケーションにおいて活用できる能力を育成するために、帯活動では質問に対して自分の気持ちなどの情報を付け加えるスピーキング活動をルーティーン化する。パフォーマンステストを定期的に行う。 ・意見交換・発表等の互いを高め合う学びを通じて、思考力・判断力・表現力等を育成する。 ・ＩＣＴを活用する。一人１台端末の利用により、自宅で音読練習した音声をタブレットＰＣに提出させ、一人一人のリーディングチェックの効率化を図る。デジタル教科書を使用する。
＜第２学年＞	・引き続き、習熟度別少人数指導を行い、個に応じた指導をすることで英語力の定着を図る。 ・更に「話す」力につなげるために、準備した発表と同時に「発表のやりとり」の活動を充実させる。 ・様々な英文や長文を読むことで、概要をつかむ、スラッシュ読みなど、工夫した読み方を身に付けさせる。
＜第３学年＞	・パフォーマンステストを定期的に実施し、英語で自分や他者について表現する力を養う。 ・ペアワークを行い、英語を使って自分の伝えたいことを表現したり、相手に英語でインタビューをしたりできるようにする。 ・教科書、問題集を活用し、文構造を正しく理解できるよう繰り返し指導を行う。